様式１

議員派遣調査研修等報告書

平成２８年１２月１９日

大縄 武夫 議会議長 様

提出者　吉田　広明

派遣目的（調査等名称）	地方自治研究交流セミナー		
派遣の日時	平成２８年１１月１５日、２９日	派遣先（場所）	鮫川村・公民館、棚倉町・新富家
内容	第１回　「質問力の向上に向けて」 　　　　自治体議会改革の現在、議会の課題・一般質問分析 第２回　グループワーク「一般質問の事例検討」「一般質問の技術」 講師：福島大学行政政策学類教授　今井 照		
派遣結果（意見及び感想）	第１回の講義の中で、自治体議会をとりまく現状で、「議会はいらない」、「高すぎる報酬」、「多すぎる定数」、「見えない仕事ぶり」、「市民との繋がりに出遅れ、支持者にしか顔が向いていない」とありました。「見えない仕事ぶり」には課題があり、住民の理解を得る為に、情報分析や地域特性を図りながら、「将来の町のあるべき姿」を想定しなければならない。又、昭和初期からの慣例で「町村長中心主義」の概念を超えなければ、首長の絶対権力が間違った選択をした場合、迷惑を被るのは住民である。夕張市の議会は「危ない」と言ってきたが、市長と職員が大丈夫と言ってきて破綻した。議会活動としては、「議員間の合意に基づく政策提案機能が大切」と言われ、共感はするものの、塙町議会は町長選挙の後遺症を抱えたままである。政策立案の討議の場はどこにも無い。課題の質問力では、「合理的根拠や論拠のない批判」、「論点を入れすぎてぼけてしまった質問」には注意すべきであり、更に自らが学ばなければならないと思う。（資料）北海道・芽室町議会の改革は、「なぜ議会改革に取り組んだのか」との中で、「改選のたびに、先輩議員が１期目の議員にそうした慣例を話しますが、新人議員がなぜそんなことをと疑問に思うのは当然です。議会の悪しき慣例、不要な慣例はかえていかないことも議会改革の背景にあったのではないかと思われます。」とあり、「芽室町議会活性化計画」を策定し、毎年、議会が何をしていくのかを計画を立て、実行している。 第２回目のグループワークでは、私の質問が事例として取り上げられ、グループ内で評価はされた。議論の中で、「議員として、イベント要員になっていることで、本当に良いのか」と問いかけをし、「それらの時間を別		

	な実務に当てなければならない」と賛同を受けた。しかし、自身の反省は大いにあり、一般質問では執行部の改善の取り組みなどに対し、今後の追跡と更なる改善への促しが必要であり、質問しただけでは、パホーマンスに終始してしまうので、次回の質問時には、経過を問いただしたい。又、通告項目を少なくし深く掘り下げた内容にしなければと思う。研修参加議員としての総括の振り返りでは、「首長の監視ができる」、「地域の意見が聞け、政策提言ができる」、「首長・職員への不満」、「要望内容の限界」「若い世代が参加してくれない」、などに意見があった。私案として、毎月くらいに対話型の「議会茶話会」などを主催しながら、もう少し町民目線での交流と情報公開・収集が必要ではないのか、その中で政策提案が生まれれば、それらを調査・情報収集で裏付けしながら、政策提案質問へ持ち込めれば議会活動として成立するのではないか。 最後に、棚倉町の議員さんより、「１町村で全ての事業を行うことも難しい時代になってくる」と言われ、４町村での益々の情報交換が必要と思われる。